

第36回 神奈川県美術展

2000

第36回 神奈川県美術展

1期展／平面 立体 平成12年9月6日(水)～9月17日(日)

2期展／工芸 書 写真 平成12年9月20日(水)～10月1日(日)

会場：神奈川県民ホールギャラリー

主 催／神奈川県民ホール [(財)神奈川県芸術文化財団]

神奈川県

神奈川県美術展委員会

(厚木巡回展のみ)

厚木市

厚木市文化会館事業協会

厚木巡回展／平成12年10月4日(水)～15日(日)

会場：厚木市文化会館展示室

受賞作品目録

《平面 立体》	大	賞	川 城 夏 未	茅ヶ崎市	Balance 2000 No.1/ Balance 2000 No.2
	準 大	賞	飯 島 浩 二	小平市	記憶は走る
	準 大	賞	佐 藤 潔	横浜市	出 現
	特	選	今 井 李々子	大磯町	無題 2000-Ⅱ
	特	選	河 合 勇 作	横浜市	migration-root
	特	選	安 室 三 郎	横浜市	鏡
	特	選	吉 田 夏 乃	横浜市	室内の人物
	県立近代美術館賞		佐 竹 邦 子	志木市	風分子-9
	美術奨学会賞		藤 井 志 帆	相模原市	T O O-01
	はまぎん財団賞		加 藤 良 造	横須賀市	山水行

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から給付される賞です。
 ※はまぎん財団賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的としてはまぎん産業文化振興財団から給付される賞です。
 ※市町名は現住所です。

入選作品目録

《 平面 》

西 川 洋一郎	the eyes behind the shade	大 塚 とみ子	私的不可視の宇宙
大 矢 雅 章	霏霏 99-4	大 籠 弘 子	作品 III
菊 谷 かおり	SIDE/SIDE	瀬 尾 きみ子	時間・位置-0007
塙 仁 志	止められた時	岸 上 嘉世子	ざわめき I
菅 沼 稔	Paraphrase・150	藤 田 真 理	囚われた地 2000-No.2
宮 川 崇	無題(No.5.1-2)	中 山 智 介	それぞれの言葉がやわらかな風に融合う時
池 田 周 三	冗舌な刻	澤 田 サ チ	睡魔の刻 (II)
吉 見 律 子	触 the sense of touch I	大 川 政 治	サンデー モーニング
前 田 啓 子	虜(とりこ)'00	亀 山 治 代	個人の領域 I
渡 邊 洋	mucous membrane "TSUKINOKAO"	澤 岡 泰 子	生れいづるところ-2000-5
松 澤 五 男	失われた風景	山 本 咲 子	父が遺したもの(1999.12.11 ゴールイン)
佐々木 朋子	ソナチネ No.7	金 子 恒 雄	瞬 I
有 賀 孝 子	私は私 II	藤 井 清 子	宇宙生命 004
YOKO・田中	思いのままに〔夏〕	田 中 信 男	人 (I)
平 井 和 穂	街	堀 岡 正 子	樹の譜 (I)
藤 崎 淳 子	静けさの向こうには…II	小 南 典 子	天球の歌を聴く II
水 村 繁	刻む B	湯 山 さつき	カムリ
中 沢 務	視線矯正	高 浦 とみ子	sonnet
木 内 敏 行	未知の場で歪む四角形	瀧 野 尚 子	ながれるじかん
安 田 文 夫	LIVE IN SHONAN	高 山 洋一郎	葉 桜
小 澤 はるみ	Ki-T-shirt 4℃	山 崎 由美子	浴室 II
広 瀬 美 帆	なわをとぶ	鎌 田 世津子	ここから見た風景
○ 嶽 喜代子	再生	井 手 菜 穂	Imagine-I
西 本 正 憲	水平線-垂直な73番	鈴 木 國 男	炎-SADAKO-'45~'99
芝 田 しげる	エッセンス	浅 倉 寛	形影 (2)
伊 藤 琴 恵	Untitled 1	伊 東 玲 子	許される場所
久 保 恵 子	蒼風	久 保 敬 子	アロエと2人の女
根 本 美 恵	アンバランス	水 野 智雅子	風のエピソード
浅 川 洋 子	Passion I	表 康 子	on the table (黒)
豊 崎 旺 子	FLUID-2	佐 藤 靖 子	woman I
正 木 淑 子	何处へ II	伊 藤 彰 規	Land 2000-III
横 山 将 二	"There", No.41	吉 池 さ と み	trace:tracing I-No.2
知 久 茂 雄	ツイン	関 水 英 司	愛のゆくえ II
萩 原 知 子	沓合-sense translation-	菅 原 百 佳	Libera
石 原 誠	はかせのへや 1	古 市 正 彦	行進曲
○ 鶴 飼 しをり	花の譜 II	島 田 正 紀	ユーディット

《立体》

額 賀 和 子	風薫る
根 本 雅 行	景 (2)
深 海 武 範	きよちゃんに
小 川 了 子	西にある木の実
野 口 美由紀	夢の中で
矢 部 裕 輔	2000
大 工 公 司	Not I I
石 井 尚 子	情熱—passion—
山 川 靖 夫	10ヶのトルソ
新 恵 美佐子	花
吉 原 多美枝	zone
田 辺 珠 樹	Anchor (錨)
藤 沢 京 子	約束のとき
広 野 正	骸 (むくろ)
遠 藤 麻木子	潮切
渡 辺 勇	生命体
増 田 由紀子	MILLENNIUM VI
岸 本 朋 子	棲遑
ササキユウコ	Voice of nature I
芳 永 彩 夏	—Torso— 肥ゆる妄想
吉 田 有 紀	夢

杉 英 行	原 景
片 岡 操	刻 印
栗 木 道 夫	T'
金 子 博 子	発 芽
石 田 眞 利	欲望のかたち
辻 眞 由 美	Body・mind・soul
青 木 敦	Imagine
堀 口 真 寿	entropy 2000
高 梨 裕 理	朽ちるもの鳴り響く
小 林 秀 幹	森の泉
山 本 秀 明	内 層
生 越 麻紀子	信号まち

審査経過

《平面 立体》

大げさにいえば、今世紀最後の県美術展である。といっても、それほどの感激や感傷があった訳ではない。むしろ、平々坦々と例年と同じように進行されていった。

この世紀末にきて、芸術の意識は領域を広げながら、ぐるぐる廻りをしているようだ。出口を見失って逡巡している。もしかするとこのまま低俗化し、奈落に引きずり込まれてしまうのかも知れない。目的性を失った不安感がどこかにみえてくる。審査をしながら、そんなことを考えていた。

平面432点（253名）、立体42点（32名）。昨年より若干、応募点数は少ない。内容は同じようなものだ。はじめ平面の審査を行う。1点ずつ作品を前にして、挙手によった。5名以上の賛成で入選、2名以上は保留、再審査になる。厳選となり、1次入選では70余点となった。保留からの再審査によって、99名、100点が最終的に入選する。約3割強の作品が入選したことになる。立体は審査員が各自票を持って、はじめ10点ずつを推し、多数決で決めていく。2回繰り返し、16点にしぼられた。賞候補は、平面・立体の上位10点ずつが推挙され、さらに投票によって各賞を一つ一つ決めていく。少し煩雑であったが公正な方法だ。

美についての評価は、個人によって大きく異なる。7人の審査員による合意といっても、曖昧さを持った決断ということになる。多数決による平均値ということが、一般的な美の評価となるのかどうかは分からない。ただ、暗黙の

基準的な評価はなされる。

大賞（平面）、川城夏末「Balance 2000 No.1」、同「No.2」。2点で1組といったことで受賞。明るい赤色のなかに赤いフォルムがただよう。簡明で直截な意識がダイレクトに伝えられてくる。

準大賞（平面）、佐藤潔「出現」。入選歴10回という。茫洋としたなかから生まれ出る絵画空間。繊細な意識もみえる。同（立体）、飯島浩二「記憶は走る」。錯綜するスピード感のなかに、現代の苛立ちがあるようだ。

特選（立体）、安室三郎「鏡」。ガラスと紙という素材の面白さ。造形的には工夫があるといい。同（立体）、河合勇作「migration—root」。軌跡を追いながら動きを捕らえる量塊。同（平面）、今井李々子「無題 2000—II」。区切られた面が重層化しながらマチエールを形成していく。同（平面）、吉田夏乃「室内の人物」。軽やかな情緒を持つ具象作品。もう少し省略したい。

近代美術館賞（平面）、佐竹邦子「風分子—9」。重厚なフォルムが小さな朱色に対比する版画（ベニヤによるリトグラフ）。美術奨学会賞（立体）、藤井志帆「T00—01」。波打つアーチにリズムを感じる。はまぎん財団賞（平面）、加藤良造「山水行」。明暗幽邃のうちに気を思う。

簡単な印象を述べた。具象作品が少なかったことは残念だった。

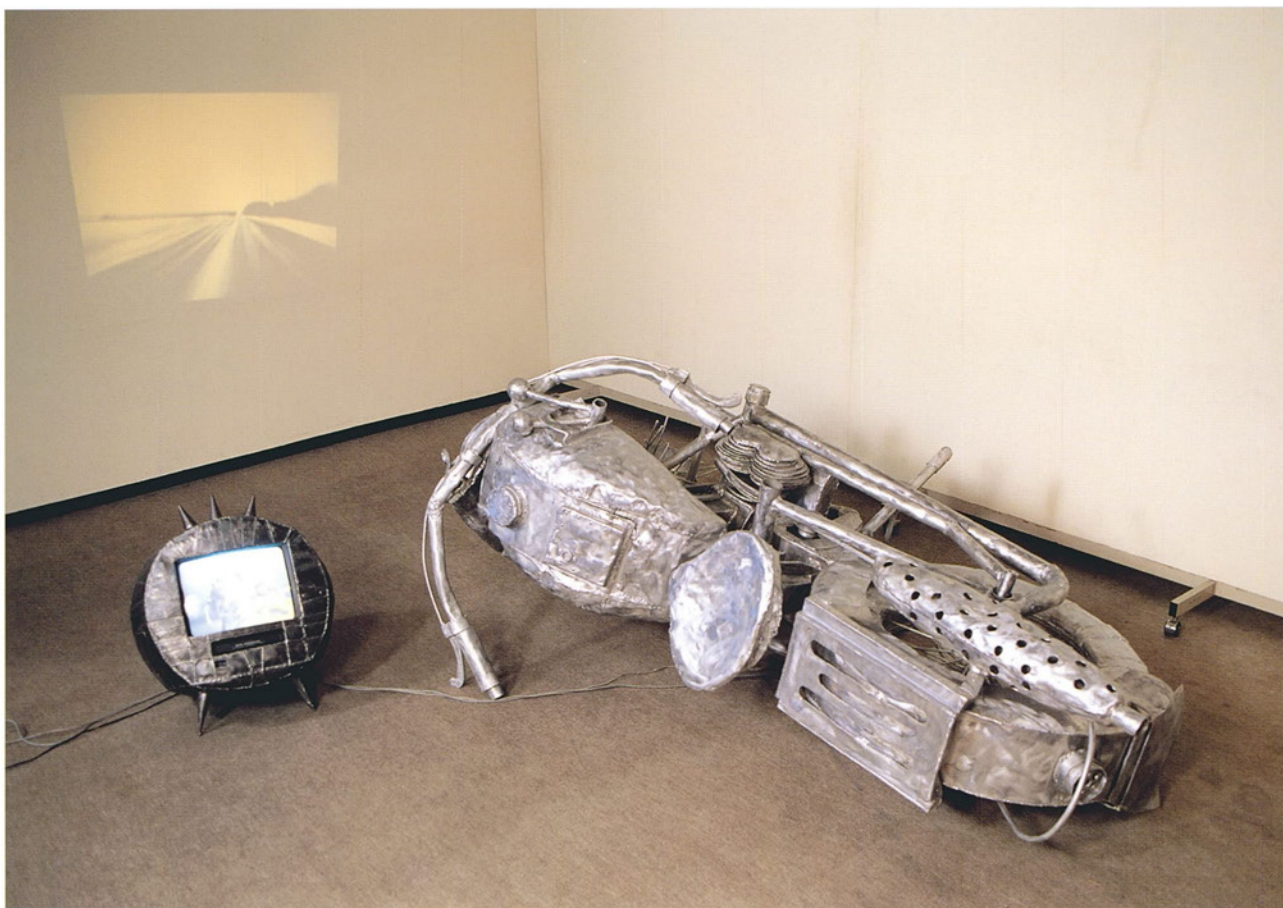
（柳生不二雄）



【大 賞】「Balance 2000 No.1/Balance 2000 No.2」川城 夏未

略歴 1968—茅ヶ崎市に生まれる
 1992—女子美術大学芸術学部洋画科卒業
 女子美術大学卒業制作賞受賞
 1995—東京芸術大学美術学部大学院油画科修了
 1996—第33回神奈川県美術展
 1999—第35回神奈川県美術展
 個展 1996—Oギャラリー（東京銀座）
 1997—Oギャラリー
 1998—ウインドーギャラリー（東京神田）
 不二画廊（大阪）
 1999—ストリートギャラリー（神戸）
 不二画廊
 Oギャラリー
 2000—Oギャラリー—eyes（大阪）
 Platina otto

グループ展 1990—神奈川県民ホールギャラリー
 1991—ギャラリースペース21（東京新橋）
 1994—J B C ギャラリー（東京銀座）
 1995—大和銀行ギャラリー
 1996—那由他画廊（横浜）
 1999—バングラディシュ・ダッカ



【準大賞】「記憶は走る」飯島 浩二

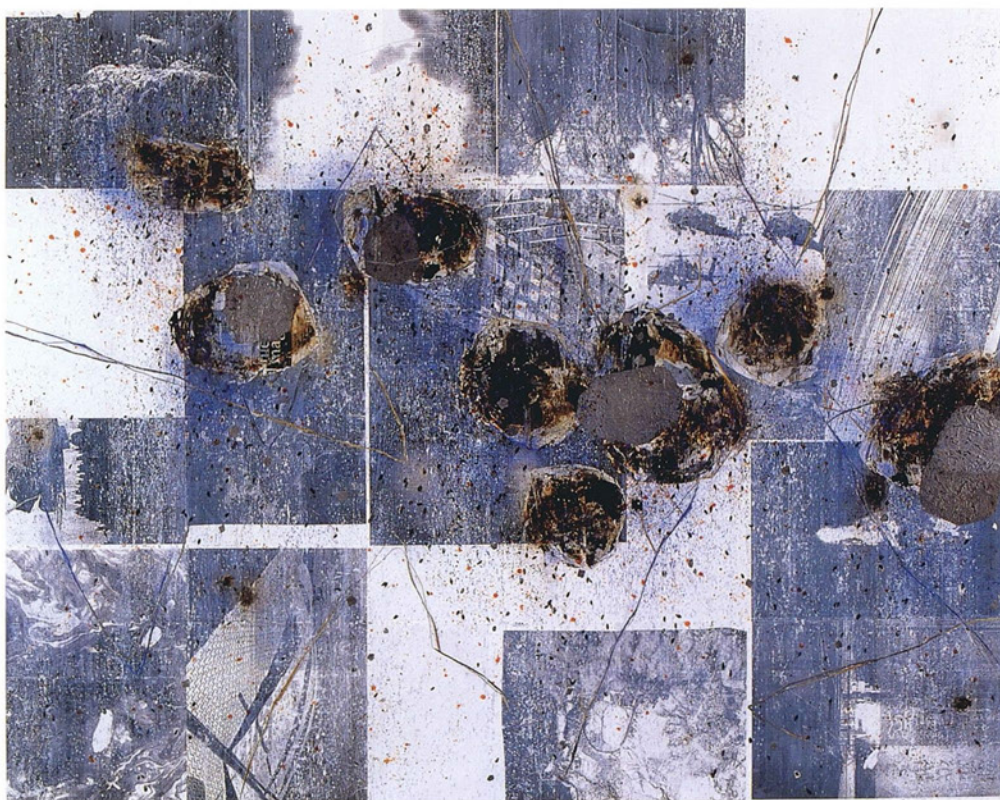
略歴 1973—横浜市に生まれる
 1997—武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業
 文化庁芸術インターンシップ研修員を経て、
 武蔵野美術大学助手
 1998—URBANART #7 佳作
 1999—前橋 ART COMPE LIVE '99 銀賞
 2000—前橋 ART COMPE LIVE 2000 銀賞
 現在、TV東京「たけしの誰でもピカソ／アートバトル6 連勝中」
 個展 1998—RIDING VIEW 25、青樺画廊（銀座）
 1999—WAGGING DOG 1999、Oギャラリー（銀座）

グループ展 1998—第27回現代日本美術展、東京都美術館
 第7回日本現代陶彫展、セラトピア土岐（岐阜県）
 第34回神奈川県美術展
 アジア現代美術展、東京都美術館
 URBAN ART #7、PARCO渋谷
 1999—ART COMPE '99受賞作品展、空想現代美術館（前橋）
 第35回神奈川県美術展
 URBAN ART #8
 2000—ROBOT—ISM 1950～2000、草月会館
 ART COMPE 2000受賞作品展、空想現代美術館



【準大賞】「出現」佐藤 潔

略歴 1958—大阪に生まれる
1981—多摩美術大学日本画科卒業
1997—横浜市緑区「区の樹（楓）」シンボルマーク
1998—第35回神奈川県美術展 近代美術館賞受賞
2000—第29回現代日本美術展
そのほか、神奈川国際版画アンデパンダン展、
神奈川新聞社壁画コンクール等に出品



【特 選】「無題 2000-II」今井 李々子



【特 選】「migration-root」河合 勇作



【特 選】「鏡」安室 三郎



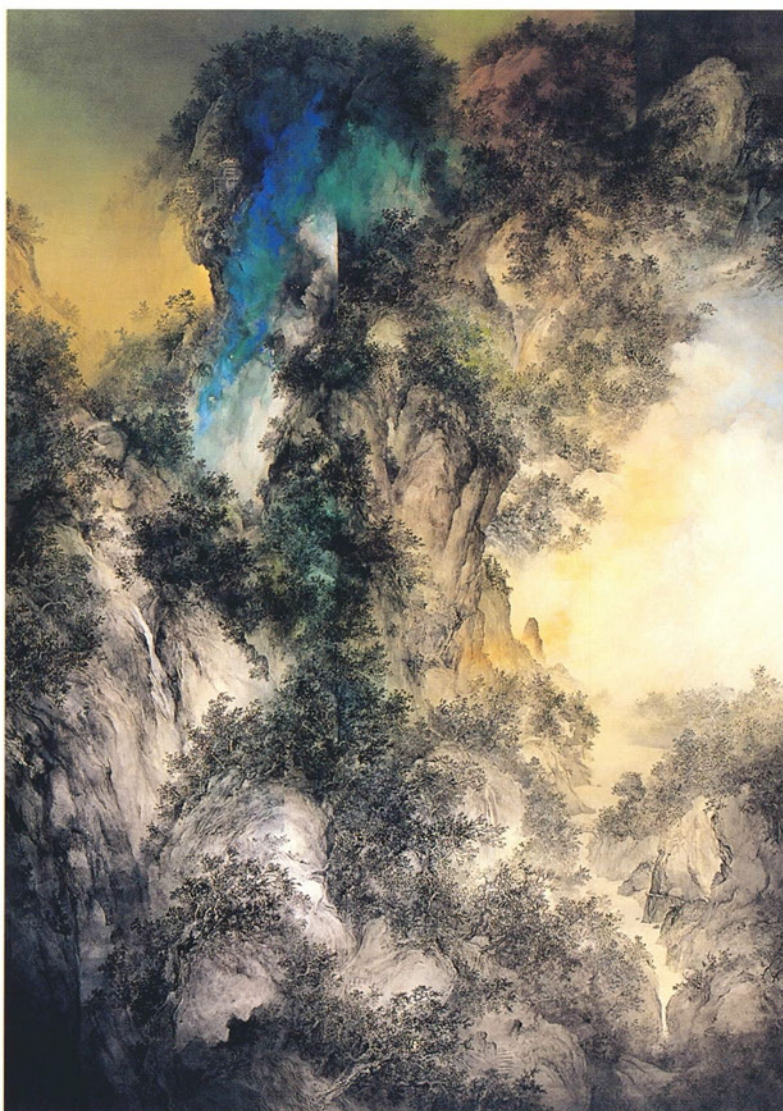
【特 選】「室内の人物」吉田 夏乃



【県立近代美術館賞】「風分子-9」佐竹 邦子



【美術奨学会賞】「TOO-01」藤井 志帆



【はまぎん財団賞】「山水行」加藤 良造

受賞作品目録

《工 芸》	大	賞	深 瀬 知 嘉 子	開成町	陰翳
	準 大	賞	大 内 明 雄	横浜市	白泥彩焼締壺
	特	選	一 法 師 和 晃	相模原市	彩
	特	選	植 松 次 男	平塚市	無伴奏チェロ曲の響き
	特	選	関 口 夏 奈	横浜市	永遠のKiss♥
	特	選	古 根 香	鎌倉市	月の水槽
	美術奨学会賞		鷹 野 のぶ子	大和市	見晴るかす
	美術奨学会賞		松 本 裕 代	江東区	中空の翼
《 書 》	大	賞	松 原 隆	横浜市	白の風景
	準 大	賞	小 川 右 佳	鎌倉市	劉長卿詩
	特	選	安 部 梅 陽	鎌倉市	杜甫詩
	特	選	浅 羽 紀代子	横浜市	柳宗元詩
	特	選	喜 瀬 美佐子	横浜市	やすらはて
	特	選	平 松 千恵子	横浜市	王攄詩
	美術奨学会賞		牧 野 幽 峰	横須賀市	幽州夜飲 張説詩
	美術奨学会賞		八 木 静 香	相模原市	中国を旅して
	県議会議長賞		住 本 霞 城	横浜市	和歌七首
《写 真》	大	賞	吉 田 陽 子	横浜市	最後の楽園(ガラパゴス) (3枚組)
	準 大	賞	林 京 子	伊勢原市	穏やかな不安(3枚組)
	特	選	石 川 真 士	三浦市	立石夕景富士
	特	選	大 畑 礼 典	横浜市	都市の造形 ABC(3枚組)
	特	選	木 村 彰	横浜市	憧 憬
	特	選	武 山 敬 子	横浜市	乾いた大地(2枚組)
	特	選	古 澤 直 代	横浜市	T U L I P
	特	選	渡 辺 富 司	横浜市	北京の街
	美術奨学会賞		榊 原 俊 寿	湯河原町	童 心(4枚組)
	美術奨学会賞		山 田 實	横浜市	アースマンダラ(デジタル調)

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から給付される賞です。
※市町名は現住所です。

入選作品目録

《工芸》

村 主 武	飛び匏壺	大 滝 俊 介	孔雀革命
糸 井 惣四郎	縄目紋双耳壺	川 渕 まつ子	みだれ箱 牡丹
鈴 木 和 夫	線刻流文花器	遠 藤 早 苗	silence
汐 谷 美樹子	機械からの警告 No.2	久保寺 春男	備前壺
大 矢 祐 子	鈴の音	花 形 澄 子	インベンション
前 沢 秀 知	斑釉禾目皿	松 崎 峰 夫	白釉浅鉢
香 取 孝 彦	鯉文様銅鏡 (へら押し文様)	能 代 眞由美	空な土塊
永 井 敏 雄	焼締壺	鈴 木 陽 子	いっちゃん盛熨斗紋筒花器
原 恒 夫	宇宙パート35 (2点組)	天 野 奈 迦	漣(サザナミ) No.1
石 綿 明 子	布目蒲文花器	島 田 亮	織部龍重
工 藤 俊太郎	備前壺	田 辺 美枝子	ムベのマガジンラック
井 上 心 生	咆哮 1-1	田 中 支	outgrowth
近 藤 京 子	紫陽花	斉 藤 亘	風 地
八木橋芙美子	幸 (しあわせ)	金 子 三女子	野草染・萩の縦長五段箆笥
松 田 ささゑ	練上暈孔雀文花器	山 口 浩 二	瑠璃被金彩楕円盛器
小 田 中 藍	雲は雲でも	羽 鳥 恵 子	彩泥象嵌鉢
宮 田 麻 緒	Blue movement	齋 藤 龍 也	白化粧象嵌扁壺
太 下 直 子	祭り	高 橋 悟	焼きしめ組鉢 (7枚組)
竹 内 朋 子	開花	稲 葉 里き江	包 (ほう)
深 澤 喜代子	草木染四段引出 (楠)	熊 谷 周 二	ジュエリーテーブル Dyne
歌 田 輝 雄	象嵌白線紋壺	坂 本 采季香	春呼ぶ炎 (お水取)
島 村 信 一	波	茂 野 俊 也	見島手組鉢 花輪
多 賀 ち か	軟彩扁壺 冬華火	原 恵 美 子	木の実ひろい (一對)
石 栗 芳 恵	海花長方器	大 槻 洋 介	胞
赤 井 哲 男	銀彩紋様器	佐 藤 智 子	そよ吹く
堀 口 成 依	17才	米 澤 昌一郎	胤志野竜文大皿
山 田 陽 子	線模様組皿 (6枚組)	渡 辺 由紀子	W.S 2000
山 田 欽 也	布目梅花文扁壺	宮 部 礼 子	朝を待つ
佐 藤 春 子	モニレダモデレダ	大 山 み つ	尺6寸木鉢
宮 原 二三子	刺し子はんてん	古 橋 須 美	尺四段箆笥
山 崎 直 子	呉須魚文平鉢 (5コ組)	根 岸 律 子	夏の終り
一ノ瀬 道子	アンティーチョーク	渡 辺 和 子	蹟の響き II
鎌 田 知 幸	水指 紅	君 島 六 郎	萩文扁壺
狩 野 サキエ	樹	大 友 茂 子	俵壺 (釉裏紅)
大 澤 恭 代	里山の春	井 上 恵 介	樹皮紋鉄釉花器
石 澤 和 幸	まぼろば	鶴 田 雅 子	0
桑 原 平 治	飛匏象嵌壺	瀬 川 たかこ	藤の花
萩 原 岳	掛分角組皿 (5枚組)	平 岩 あき子	autumn
乃 木 吉 之	七夕	井 上 佳由理	Sun shine gate/Moon light gate
鳥 海 綾 子	Le Prélude	尾 形 政 子	回 顧

釣	敬子	ポピー
甲斐	雪江	想
横田	敦	相生
北川	智浩	白磁組コンポート
増田	かよ子	昊(コウ)
小林	雅子	迷宮
原田	真弓	風の足跡
上田	真由美	夕映
安藤	和夫	神代楡笈形厨子
諸橋	邦夫	挟り盃ペア和楽
岩井	尚子	着物 レースフラワー

《書》

弦間秀僊	和歌五首
岩崎菊畦	和歌五首
小山翠謡	杜甫詩(秋興八首の1)
金澤昭子	月影
池上好子	宇治間山
鶴田壽	山家集
小池弘子	パリを離れて
宮崎葭瑤	杜甫詩
中村清園	望武夷山作
山下静雨	晶子歌
書川昌子	ほととぎす
宮川勝美	高攀龍 静坐吟
浅間静江	短歌一首(子規の歌)
荒砂典子	花のやど
大場法翠	臨 高野切第一種卷二十
鈴木白鷺	大和の国
金井瑤光	風さそふ
岡本光草	薔薇
片山静苑	李白詩
町田靖穂	新古今集抄
中村咲子	一條拱政集
齋藤知樹	李白詩 秋登宣城謝朓北樓
大島幽光	同王徵洞庭有懷張謂詩
小島静翠	百人一首抄
中川由紀子	萩原
伊藤青光	わが宿
上永青圓	三十六歌仙より
吉田青粹	百人一首より
佐藤青香	和泉式部集より
筒井節子	山家集より
井上澄江	百人一首より
矢島初江	桜 和歌あつめ
塩沢鷺州	古今集
大泉鴛州	子規の詩を
河又世津子	あかしがた
岡崎香芳	王昌齡詩
黒田杪崑	于謙の詩
菅原博	明唐伯虎一世歌
吉村祥貞	次韻答邢惇夫
中町祥紀	李白詩

新井青谿	祖詠詩 望蓟門
赤穂恭子	春がすみ
山岸陽子	人しれぬ
尾崎洋子	ゆめ
原龍児	秋 萩
相馬澄月	坂村真民の詩
西山秀嶺	佐々木信綱の歌
木下溪水	上田三四二の作歌の指標より
原靖	遠くへいきたい
茂木芳子	青葉城恋唄
尾辻佑子	谷川俊太郎の詩
川田妙子	夢
茂又武子	草じとね
小川恵舟	翔 ぶ
小平松苑	海鳴子空
及川節子	案山子
丁野政之助	カントの実践理性批判
三谷麗月	大原絶唱
杉森伯泉	松平盟子の歌
山本枝折	母の歌
沖田春江	いのりのうた
土屋晋子	生きる
玉田真美	清 談
廣川心齋	俵万智の歌
馬場虹苑	三宅惟子の歌 雨の港
梅田昌葉	堀口大学の詩 流星より
深川静燕	野上彰の詩
工藤静泉	茨木のり子の詩
上野春海	短 歌
深浦桂子	短 歌
柴本華雪	故 郷
吉田萬里	田中冬二詩 北
森田新菜	見付拓の詩 厳寒
林田紀子	小野寺逢仙のうた
古谷恵美子	小野寺逢仙のうた
栃木郁子	紅蓮 (小林妙子の詩)
中山政子	群れる
大木明子	伊豆裕子の詩 みぞれ
土屋郁英	鈴木フミ子の句
篠澤玉恵	小曲より

堤智子	上杉早苗歌
池上百々子	田部井花子の下野草より
山本清子	三宅惟子のうた
佐藤淑子	茨木のり子の寒雀
後藤美華	堀口大学の詩 落葉
綿貫吉野	故郷の駅
小林千幸	溪流は山の青さに
指簇登美	中村汀女句
高橋秀栄	オホーツク
福本泰子	高良留美子の詩 谷間の花
山士家啓子	北原白秋の詩 金
松本亘正	杜甫詩
鈴木三八子	祭
島田玲花	蘇東坡詩 我廬何時高 其の五
茶木静萌	賈島詩 早秋寄題 天竺靈隱寺
渡辺悟竹	陳都帥に贈る
長澤公雅	杜甫詩二題
渡邉有香	桐江 吳蘭雪詩
井澤洋高	金陵城西樓月下吟
木村晴雲	謝廷柱詩
和田静月	高適詩 夜別韋司士
鈴木青秀	白樂天詩
池田青柳	白樂天詩
橋本青玉	李白詩
天形青遥	杜甫詩
横山蘭葉	山陰道中
坂神深陽	夏目漱石詩
木下静朝	李白詩
山野景翠	晚至村家
竹内稔子	孤山寺端上人房寫望
増木萌寿	王維詩 (山居秋暝過香積寺)
岩村蘭暎	歸田園居 (陶淵明詩)
杉浦右花	常建詩
東山右徹	杜甫詩
松尾右翠	王維詩
菊島右雪	李白詩
菱田右紫	李白詩
西川紀元	李白詩
大江喜幸江	草ふかみ
明石清子	大江山

村山ちい をしからで
 山本妙子 唐詩
 貝原積眞 張説詩
 青木湘堂 李賀詩 浩歌
 鳥居節葉 万葉歌(抄)
 杉森玉園 万葉歌(抄)
 大川泰仙 杜審言作 和康五庭芝望月有懷
 野頭莊雲 方朝詩 清溪
 小山カヨ子 題玄武禪師屋壁
 渋谷莊江 次北固山下 王湾詩
 神藤莊松 東湖舟夜
 鈴木天鳴 過臨江訪彭聲之
 鈴木莊鶴 秋初有懷 皇會待講彭修撰二公
 池田莊春 江南旅情
 市川春聴 茂吉のうた
 成田敏子 芭蕉の句
 阿部馨月 見果てぬ夢
 石原玲春 夕されば
 和田清泉 つり舟
 神山紅雲 趙鶴詩
 村上湖翠 李季衡詩
 杉山百合子 丹青引贈曹將軍霸(杜甫詩)
 浅見玲湖 孫逖詩
 早瀬香谷 禪語
 加藤翠郷 陶淵明詩
 柴田李笙 吳蘭雪詩
 古田泰子 万葉集
 内田恵洋 ふりさけて
 佐藤友理 みちとせに
 米澤千恵子 うすくこく
 小原庭処 漢詩三首
 庵華翠 郭元登詩 甘州卽事
 田端蒼秀 朱子蓉詩
 中村起世 朱仲雅詩
 西澤憂 何匪我詩 湘南雜興
 佐藤柚処 趙宗文詩
 村松桃華 過古城 王漁洋詩
 野澤遊泉 王達詩
 菊地如泉 吳文泰詩

《写真》

栗林吉夫 神々の聖域
 杉田介伊 宿場町(3枚組)
 酒井いちろう 冬のサーファー
 高橋義一 湖の印象(2枚組)
 石田慎一 glass city
 田口栄一 大安吉日
 寺川仁 青春ファンタジー
 市川正 ミレニアム光輝
 高橋勤 私の住む町(5枚組)
 北原實 桜時(さくらどき)
 露木多鶴子 孫生え(槩)
 市川洋子 或る墓標
 和田實 都市の構図
 岩本直樹 燕岳奇岩塔
 平松啓一郎 「葉々・おしゃべり」「葉々・汗かき」
 「葉々・秋の顔」「葉々・冬の蝶」
 青木静子 砂漠に咲く花
 高橋康資 白い海
 藤元勇 朝日が映る棚田
 佐藤正美 冬景色
 小澤奉信 天運(2枚組)
 仲俣勝子 双雲朝輝
 椎名真珠子 ミレニアムの夜明けに
 内山正男 森林
 高梨文夫 嫁入りの日(3枚組)
 井上喜和子 雅な人々(4枚組)
 小林義雄 雲が舞ふ
 石川昭 初冠
 酒井昭夫 それぞれが祭の主役(2枚組)
 佐藤栄子 旅の記憶 No.1
 古塩政由 フラワー
 斎藤勝正 風の盆・和合踊り
 高木太三郎 もういっかい
 庄司雄一郎 相冊鍛冶 二十四代正宗(3枚組)
 伊藤博 山紫水明(3枚組)
 福田幸子 白眉
 鈴木喜三郎 過ぎゆく
 内田幸夫 氷華(2枚組)
 室井博 光の切り絵「光、そして窓」

小 野 望	ブナ林霧景	澤 田 秀 雄	北国に春の訪れ（1）
保 田 繁 子	芝 桜	本 間 英 夫	唐松岳 澄爽の宇宙（4枚組）
須 藤 明	宇宙遊泳	根 岸 邦 江	練習中
萩 谷 芳 美	捕 獲	中 川 ケイ子	民家の春
木 内 敏 行	無題（3枚組）	稲 葉 大 輔	朱氷玄氷（2枚組）
鈴 木 ススム	静寂（3枚組）	津 田 祥 夫	ライフガード
古 屋 光 雄	遺産（3枚組）	平 野 定 夫	ネパールの子供たち
長 坂 茂太郎	一ふく	伊 東 大 輔	きざし（4枚組）
松 本 雪 夫	笑 顔	鈴 木 康 代	ファミリー
加 藤 肇	ピンクの帽子	志 村 欣 佑	印可（2枚組）
和 田 幸 夫	クレヨンはともだち	船 山 恵美代	仮面の人
渡 辺 英 美	新緑の薫り	金 子 金 男	暁 紅
佐 藤 幸 一	雨上り	今 井 稔	春（3枚組）
中 山 亨	太夫迫真の語り（3枚組）	内 田 芳 雄	いただきます
川 上 千 秋	山湖の日の出	牛 木 実	月光富士
田 中 夏	街 角	君 塚 宣 良	早春の光景（4枚組）
小 島 英 雄	夜明けの海	高 野 二三子	視 線
後 藤 哲 雄	Love	西 尾 絢 子	二人の世界
秋 本 富 男	海岸通り壱番地（2枚組）	畑 恵 子	Still Life IV
小 泉 雄 治	水無月の彩り		
原 進	ルーリと出今		
鈴 木 良	悠久の街（緑園）（3枚組）		
田 辺 和 郎	横浜野毛物語（5枚組）		
堀 坂 和 夫	球のゆくえ（3枚組）		
中 間 知 利	吊し雲		
関 根 正 男	棚田の夜明け		
齊 藤 ふさ子	若人の海		
竹 内 和 江	春の装い		
笹 本 宗 晴	影法師		
商 家 訓	はしけの詩（4枚組）		
望 月 勝 美	威嚇（3枚組）		
田 中 英 治	こちら側満席		
徳 重 和 子	鏡		
長 谷 川 雄 二	ネパールの街角（3枚組）		
日 下 晴 代	舟 映		
西 村 栄 八	戦う高校生		
長 澤 秀 美	霧雨に煙る		
高 木 満喜子	恋ごころ		
田 中 久 巳	視 線		
今 野 良 一	嫁ぐ日（2枚組）		

審査経過

《工芸》

日本の工芸は、ある意味では大きな曲がり角に差しかかっているのかもしれない。西洋の影響のもとに展開した近代工芸は、今世紀後半には、伝統を守ろうとする立場にしろ、オブジェとしての工芸を目指す立場にしろ、実用性ということからは離れて、鑑賞上での美や、自己表現への追求を強め、他の分野の造形と余り変わらない様相を呈するようになった。

しかし、本来工芸は生活に根差し、生活と深く結びついて発達してきた。このことは、江戸時代までの美術をみれば明らかである。今日でもその伝統は、工芸の本質をなすものとして重要な要素であることに変わりがない。人々の生活の身近にあって、潤いと豊かさを与えてくれる存在であるかぎり、工芸はさらなる発展への可能性も見出せよう。ところで、神奈川の状況はどうであろうか。

今回も応募は、陶芸、染色、織り、ガラス、木竹工、漆、金工、皮革、人形等多岐にわたり、点数も昨年を上回った。審査会は、まず入選作を選ぶ作業から始め、第一次審査では、83点を選んだが、同一作家1点に絞るという方針から、うち4点が省かれ、79点をまず入選とした。さらに第二次で14点、第三次で6点を選び、合計99点を入選とした。次に入賞作品の選考にはいり、賞候補を23点選んだ。大賞の選考は、7名の審査員が、1人2票を持ち、投票。その結果、No. 266に5票、No. 230に4票、あと5点の作品に各1票が入った。票の多い上位2点について、さらに1人1票を持って投票を行い、4票を獲得した266番の深瀬知嘉子さんの「陰翳」が大賞。3票の大内明雄さんの「白泥彩焼締壺」が準大賞となった。特選、美術奨学会賞も賞候補の中から投票と協議で選ばれた。

全体的には、創意、技術、表現等において優れた作品が厳選された。選にもれたもののなかにも可能性を秘めた作品が少なくなかった。次回に向けて頑張ってほしい。さて、入賞作品であるが、大賞は、染色による鮮やかな色彩と構成の平面作品で、新鮮さと現代性を感じさせ、準大賞は土と火と伝統的な匠の技による優雅で静かさを湛える作品である。特選の4点は、陶芸、染色、金工、竹工のそれぞれの技法を駆使して、新しい表現をめざした作品群である。とくに一法師和晃「彩」は、見られるものとしての陶のオ

ブジェであり、重ねた布に浮遊するクラゲをプリントした古根香「月の水槽」は、その軽快さと透明感で現代的である。

(真室佳武)

《書》

今年の書部門は1人1点の出品で、221点（前回比17点減）の応募があった。審査は出席した5人の審査員がそれぞれ1から5までの5枚のカードを持ち、各作品について、そのうちの1枚を選んで投じ、トータルで高得点の順に入選させるという方法をとった。この結果、入選したのは168点。さらに、入選作から9点の入賞作を選ぶことになったが、ここでは入落判定時の得点を参照しながら、本展を構成する漢字、かな、近代詩文書の3部門のバランスをとることはもちろん、同一系統の書風に偏らないように心掛けた。方法を具体的に述べると、以上の点に注意しながらまず10余点に作品をしばらくこみ、それらについて、5人の審査員が、1から4までのカードを、自分の推す4作品に投じ、その合計点で賞を競うというものである。

大賞に輝いた松原隆「白の風景」は、同一系統の近代詩文書のなかでも、ひときわスケールが大きく、最高点を獲得した。近代詩文書には近代詩文書なりの作法があるものだが、本作は2行にわたる字が素直さを失わず、作法を作法と感じさせない自然な作りに好感が持たれた。準大賞の小川右佳「劉長卿詩」は一字一字を大切に、しっかり書いていった作品。六朝の楷書や鉄斎などの学習を踏まえたと思われる書風で、字に心を込める姿勢がうかがえた。

特選には伝統書の4点を選ばれた。うち漢字は浅羽紀代子「柳宗元詩」、平松千恵子「王攄詩」、安部梅陽「杜甫詩」のいずれも横ものの3点で、とがった線を微妙に屈折させる浅羽のしゃれた風情、艶のある平松、自然に書き流した安部とそれぞれ持ち味があり、行草書の多様性が楽しめる。また、仮名の喜瀬美佐子「やすらはて」は本阿弥切などの学習の成果を生かして、仮名ならではの繊細美を手堅く見せる。

ほかに美術奨学会賞に牧野幽峰の飄逸味のある漢字書「幽州夜飲 張説詩」、八木静香の近代詩文書「中国を旅して」の2点が、県議会議長賞には住本霞城の爽やかな仮名「和歌七首」がそれぞれ選ばれた。

今回初めて神奈川県展の審査を経験したが、中央で行われる全国紙主催の書展の枠を超えて、現代書もあれば伝統書もあるという内容が好ましい。双方が刺激しあう場が県展によって生み出されている点を評価したい。常連メンバーだけでなく、新しい層が出品して、書風に一層の幅ができてくれば、もっとよくなるだろう。最後に、長い間、本県展のために尽力され、今回展でも審査を担当されるはずだった殿村藍田氏が亡くなったことを記し、ご冥福を祈りたい。

(菅原教夫)

※なお、審査経過にもあるとおり、殿村藍田氏が亡くなったことにより、また岩澤蕙堂氏が体調を崩されて欠席したことにより、5名で審査を行った。

《写真》

第36回神奈川県美術展・写真部門では、作品点数で581点、参加者数187人の応募を見た。これは、前年度比で点数としては18パーセント、人数では20パーセントの増加となり、前回より盛況を見せたことは喜ばしいことであった。

作品の傾向としては、一方で、世界レベルでの国際化の進展を反映して被写体を国外に求めたもの、他方で、国内の社会の変容と伝統的な様相にテーマを求めたものに優れた作品が見られた。大賞となった吉田陽子氏の「最後の楽園」は、ガラパゴス諸島に生息する稀少生物を捉えたものであり、自然環境への意識の高まりを象徴するものであった。動物写真が大賞を獲得したのは今回が初めてである。被写体自体の重大さもさることながら、その強さを極めて直裁に表現した点が高く評価された。特選の一名、武山敬子氏の「乾いた大地」も温暖化した地球の姿を浮かび上がらせる作品として選ばれたものである。

準大賞の林京子氏の「穏やかな不安」は、海辺のさびれゆく町の光景をモノクロームの世界に見事にまとめた上げ

た組写真であった。特選作品については、大畑礼典氏の「都市の造形」、古澤直代氏の「TULIP」が大胆な造形感覚で特筆すべきものであった。渡辺富司氏の「北京の街」は近代化と伝統が併存する現代中国の様相を捉えた秀作である。木村彰氏の「憧憬」、石川真士氏の「立石夕景富士」は、ピクトリアルな風景世界に新鮮な感覚を見せている。美術奨学会賞には、山田實氏の「アースマンダラ」が、浸透著しいデジタル画像による唯一の作品として実験的精神が評価された。もうひとつの奨学会賞である榊原俊寿氏の「童心」は、それとは逆に、こどもを主題にしたスナップ作品で、写真本来のストレートな魅力を再確認させてくれた。

全体の印象を述べておこう。各委員の講評のなかには、今回は、テーマの幅の広がりがあったという指摘や、作品が平均化しており、ずば抜けたものがなかったという意見も少なくなかった。表現として冒険的なものが欲しかったという声もあった。応募作品の大きさが4ツ切に限定されることで応募点数が増えたのは評価すべきことであるが、それによって作品の均質化が強く見られたとしたら反省すべき点ではないだろうか。また、被写体中心主義に対しても批判的な意見が出た。その結果、個の私的な視点が希薄になっている傾向が全体に見うけられた。被写体はもちろん重要であるが、特にドラマチックなものでなく、日常的な身の回りのものでもいいわけで、作者の独自のものの見方を貫くことで優れた写真を生み出すことができる。カメラの性能が飛躍的に向上し、技術的には差が出にくくなってきている今日、より自分自身の個性的なものの見方を強く打ち出すような方向性を望みたい。また、組写真で出すのか、単写真で出すのかについても、応募者にはより熟考を望みたいところである。「ものを見る眼」をより研ぎ澄まして、被写体に向かっていただきたい。

(深川雅文)



【大 賞】「陰翳」深瀬 知嘉子

略歴 大塚テキスタイルデザイン専門学校 卒業
大塚テキスタイルデザイン専門学校研究科 修了
神奈川県美術展
日本現代工芸美術展

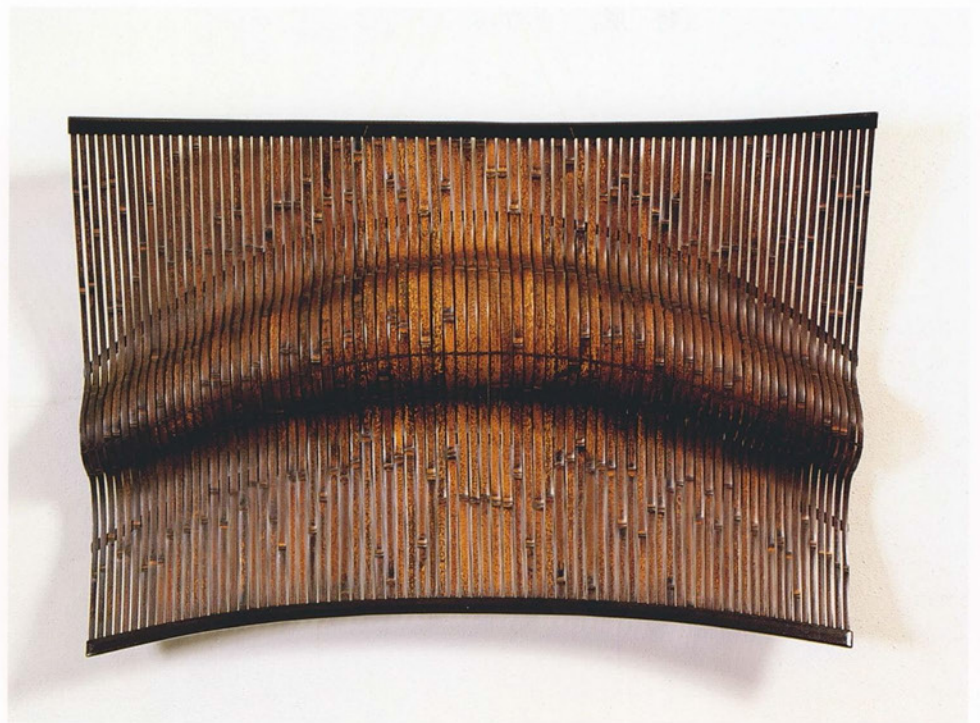


【準大賞】「白泥彩焼締壺」大内 明雄

略歴 1950ー神奈川県に生まれる
1975ー中央大学卒業
1984ー陶芸家平野トシ子に師事
1992ー陶芸の個人活動に入る
現在、よみうり日本テレビ文化センター横浜、
グループ陶華、北鎌倉工房・陶芸教室講師



【特 選】「 彩 」一法師 和晃



【特 選】「 無伴奏チェロ曲の響き 」植松 次男



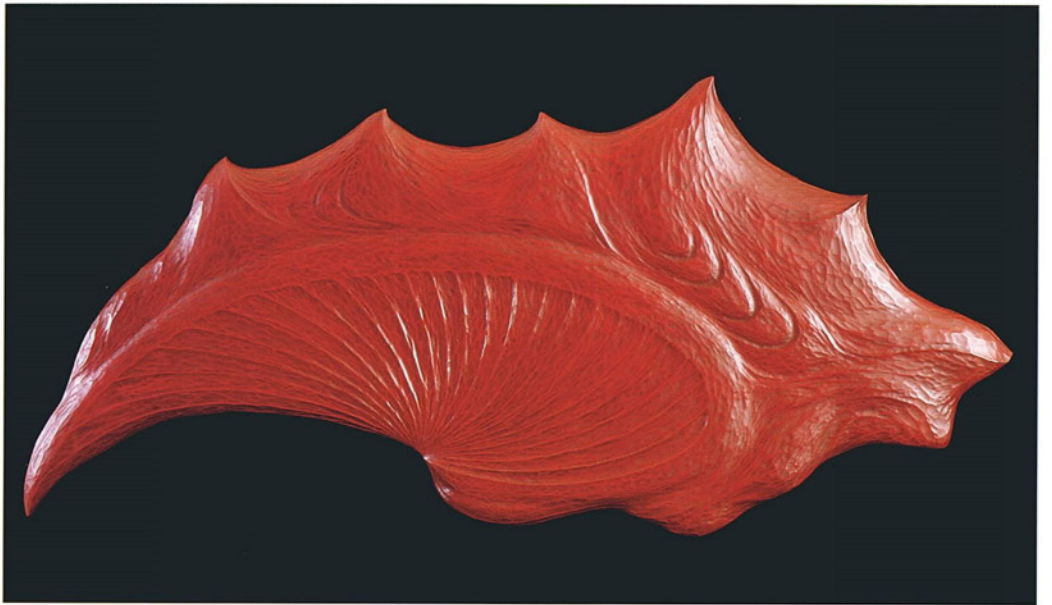
【特 選】「永遠のKiss♥」関口 夏奈



【特 選】「月の水槽」古根 香



【美術奨学会賞】「見晴るかす」鷹野 のぶ子



【美術奨学会賞】「中空の翼」松本 裕代



【大 賞】「白の風景」松原 隆

略歴 1971—横浜市に生まれる
 1993—日本大学法学部法律学科卒業
 船本芳雲に師事
 2000—第35回高野山競書大会 金剛峯寺賞受賞

舊遊憐我長沙謫
 乾酒沙頭送遠客
 天涯望月自霜沾衣上
 何人復吹簫橫笛能令
 孤客愁添波淡淡如不流
 商聲寥亮初聲苦
 江天寂歷江楓秋
 靜聽關山聞四
 玉相月色悲猿啼
 吹楊柳激繁音千
 里春色傷人心
 隨風飄向何處落
 唯見曲盡五平湖深
 劉長卿詩 聽笛歌 右佳書

【準大賞】「劉長卿詩」小川 右佳

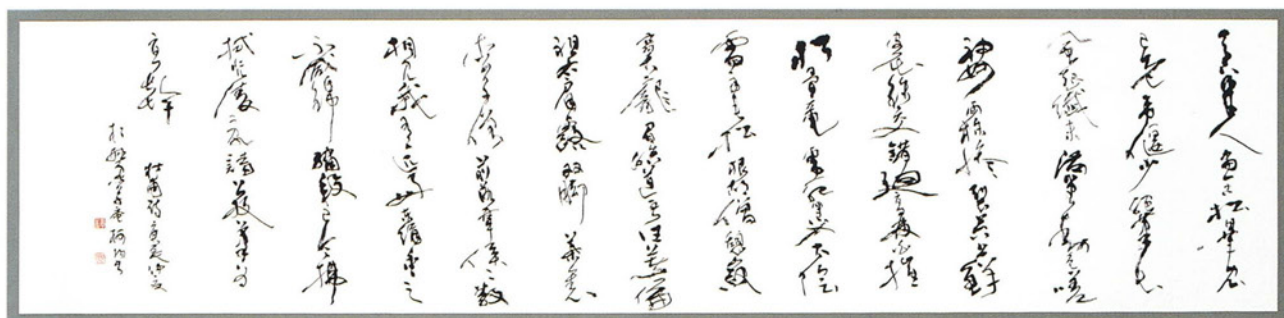
略歴 1945—神奈川県に生まれる

仙場右羊に師事

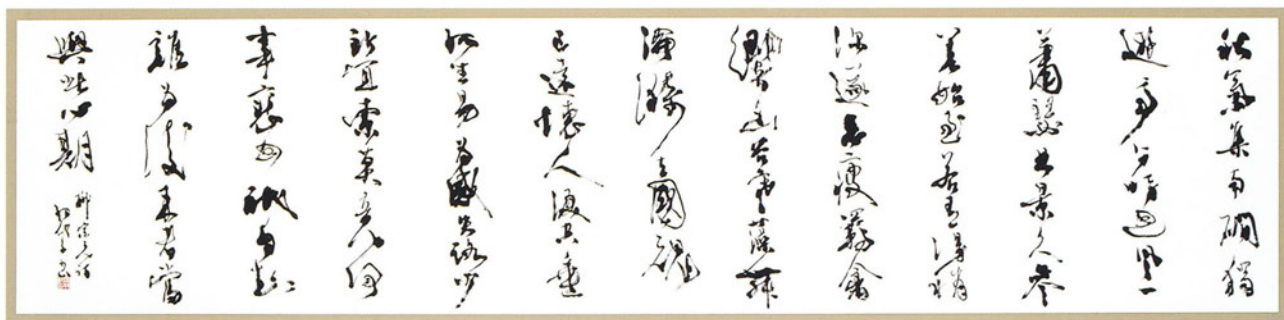
日本総合書芸院展文部大臣奨励賞受賞

毎日書道展毎日賞受賞

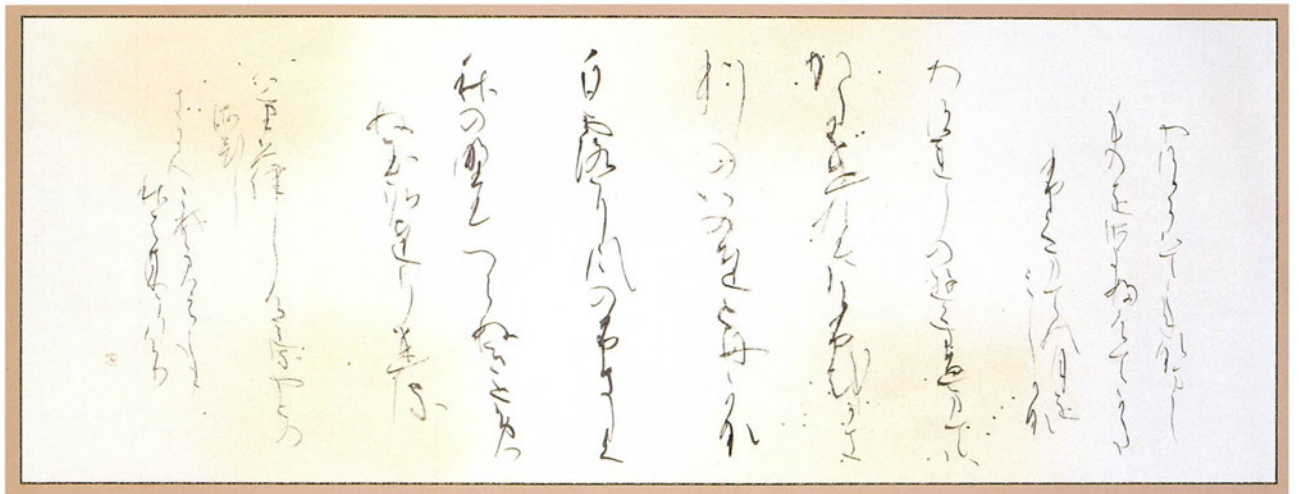
社団法人日本総合書芸院評議員／毎日書道展会員



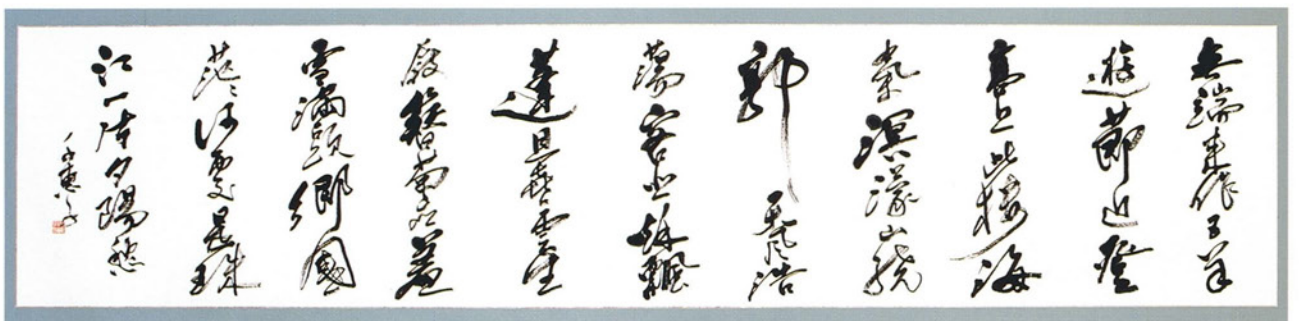
【特選】「杜甫詩」安部 梅陽



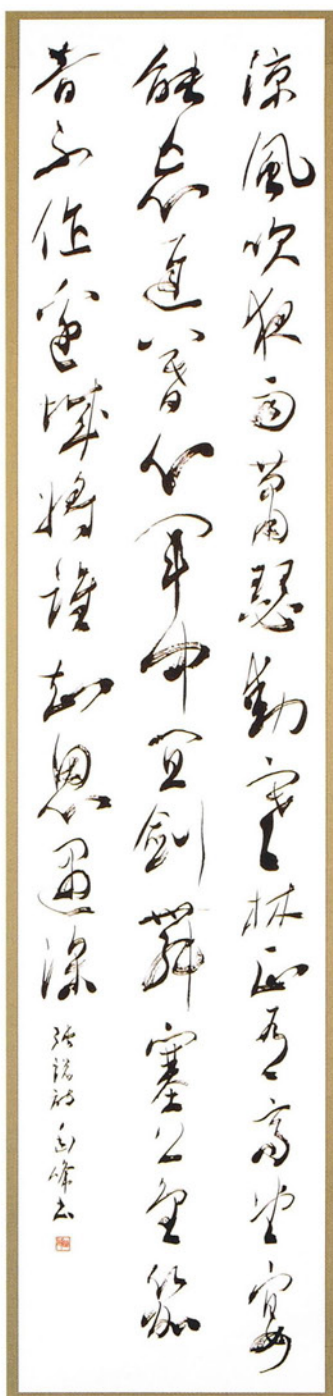
【特選】「柳宗元詩」淺羽 紀代子



【特 選】「やすらはて」喜瀬 美佐子



【特 選】「王 摠 詩」平松 千恵子



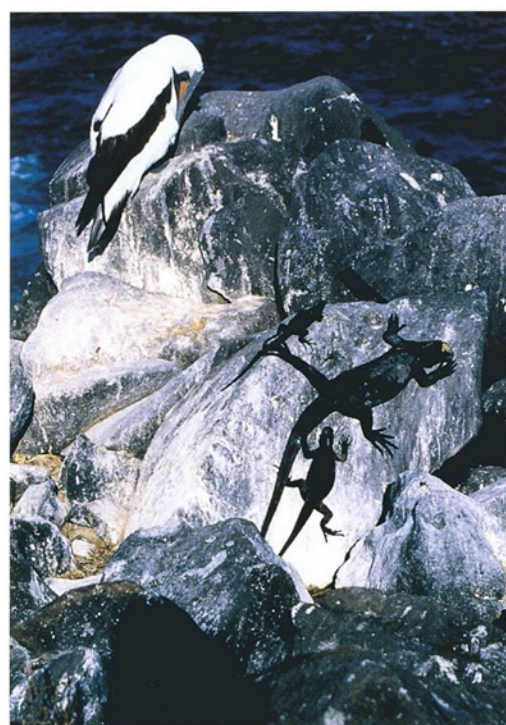
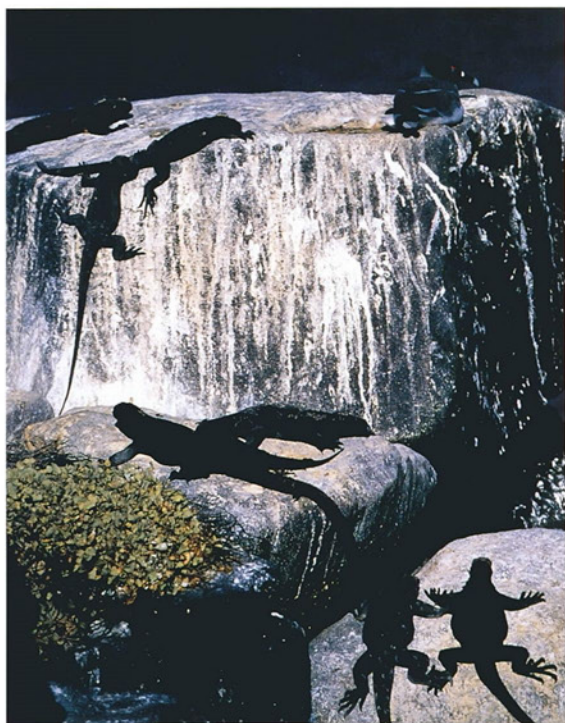
【美術奨学会賞】「幽州夜飲 張説詩」牧野 幽峰



【美術奨学会賞】「中国を旅して」八木 静香

[illegible][illegible]

【県議会議長賞】「和歌七首」住本 霞城



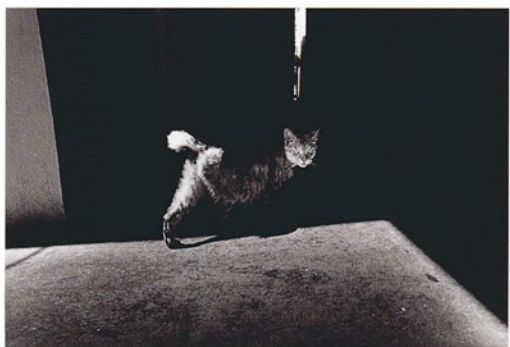
【大 賞】「最後の楽園 (ガラパゴス)」 吉田 陽子

略歴 1939— 三重県に生まれる

昭和37年静岡県立松崎高校教員、以後横浜市立原中学校、同岩崎中学校、同希望ヶ丘中学校、同南中学校、同大綱中学校に赴任、平成12年3月31日定年退職。28歳ころより登山を始め、山の美しさに感激、初めて自分専用のカメラを手にする。35歳ころより海外旅行を始め、風景写真を撮る。

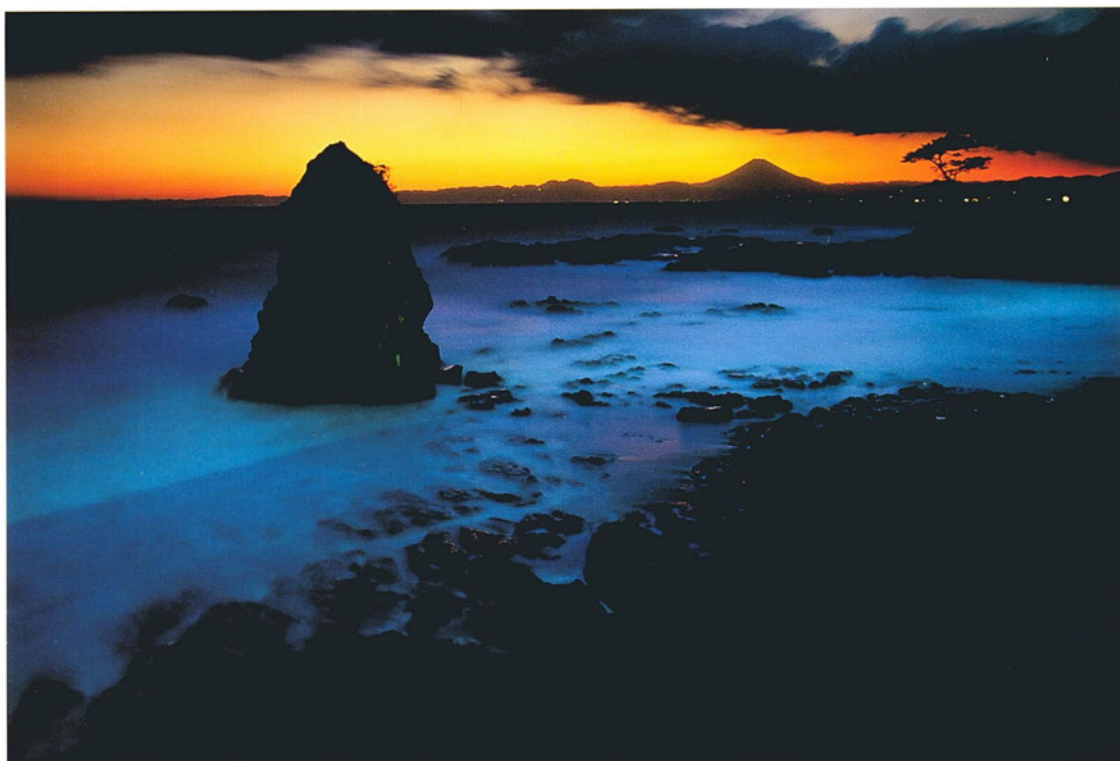
主な賞歴 二科会写真部公募展推薦 (マミヤオービー賞)、奨励賞／二科会神奈川支部二科大賞／神報連公募展大賞2回／横浜美術協会展協会賞／キャノンレディースコンテスト4年連続入賞、クイーンズ賞、準クイーンズ賞／創芸展4回入賞

所属 二科会神奈川支部会員／横浜美術協会会員／ハマグレッツ会会員／全日写連、神報連、KFP、アマテラス各所属。

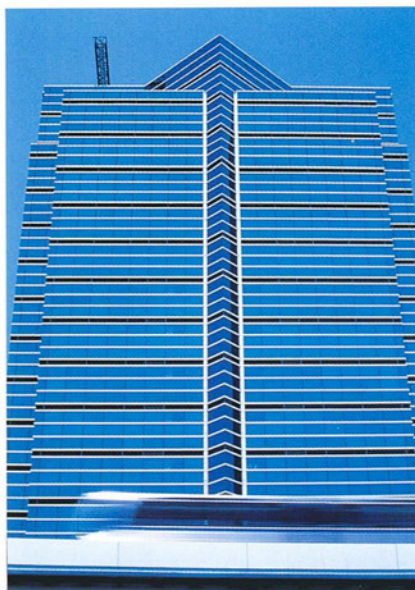
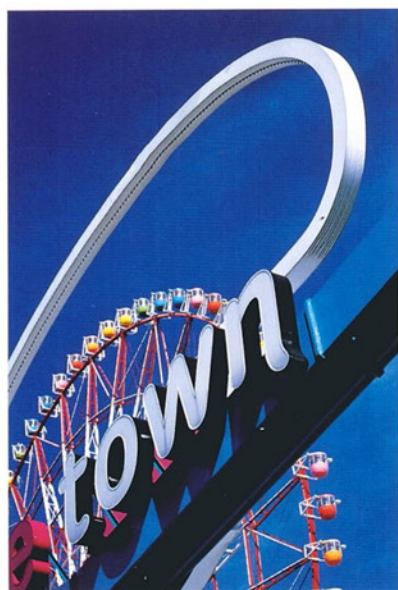


【準大賞】「穏やかな不安」林 京子

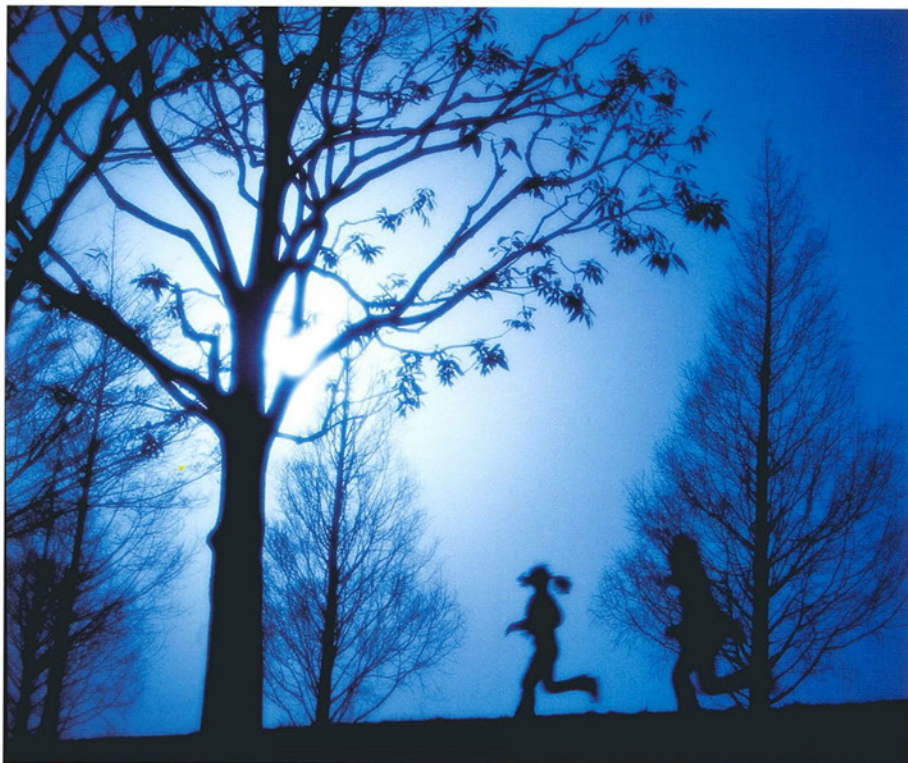
略歴 1962—千葉県松戸市に生まれる
 1993—写真を始める
 1994—第45回神奈川県勤労者美術展 横浜市長賞
 1997—第33回神奈川県美術展 美術奨学会賞
 1998—東京写真月間 '98 女性だけの写真展 入賞
 1999—第35回神奈川県美術展 大賞



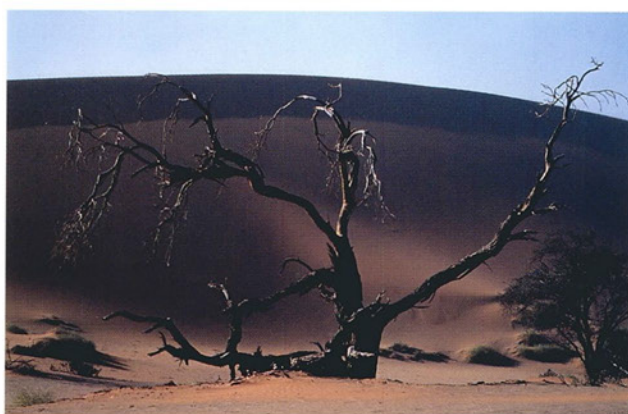
【特 選】「立石夕景富士」石川 真士



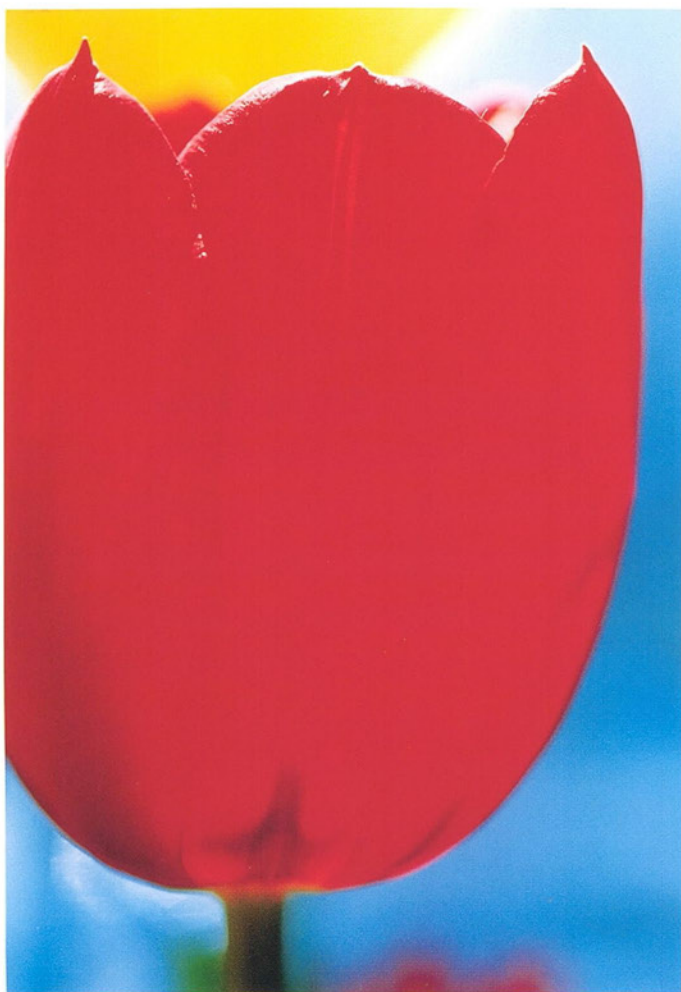
【特 選】「都市の造形 ABC」大畑 礼典



【特 選】「憧憬」木村 彰



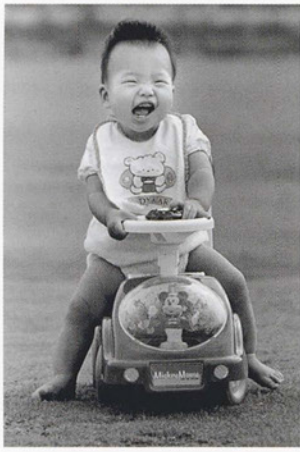
【特 選】「乾いた大地」武山 敬子



【特 選】「TULIP」古澤 直代



【特 選】「北京の街」渡辺 富司



【美術奨学会賞】「童心」 榊原 俊寿



【美術奨学会賞】「アースマンダラ(デジタル調)」 山田 實

市町村別出品者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横浜市	105	14	91	91	99	400
川崎市	26	2	21	20	13	82
横須賀市	15	3	4	11	8	41
藤沢市	11	2	7	13	11	44
茅ヶ崎市	6	1	5	1		13
平塚市	4		6	3	8	21
鎌倉市	13		11	25	13	62
逗子市	6	1	4	2		13
三浦市			3	1	1	5
相模原市	15	2	9	23	6	55
厚木市	6		6	3	3	18
大和市	4	1	4	3	3	15
伊勢原市	2		2	3	3	10
秦野市	3			1	2	6
座間市	2		4	1	5	12
海老名市	4	1		3	1	9
綾瀬市	1			3	2	6
小田原市	4		7	3	2	16
南足柄市	2					2
葉山町	1		1	1	1	4
寒川町			3	1		4
大磯町	2	1	1	3		7
二宮町	1		2		1	4
中井町						
大井町						
松田町		1				1
山北町						
開成町			1			1
箱根町	1					1
真鶴町						
湯河原町	1			1	1	3
愛川町			3		1	4
清川村						
城山町	2					2
津久井町	2		2			4
相模湖町				1		1
藤野町	1					1
県内計	240	29	197	217	184	867
東京都	9	2	11	3	1	26
その他道府	4	1	8	1	2	16
県外計	13	3	19	4	3	42
合計	253	32	216	221	187	909

出品点数一覧表

	平面	立体	小計	工芸	書	写真	小計	合計
人数	253人 (99)	32人 (16)	285人 (115)	216人 (99)	221人 (168)	187人 (107)	624人 (374)	909人 (489)
点数	432点 (100)	42点 (16)	474点 (116)	281点 (99)	221点 (168)	581点 (178)	1,083点 (445)	1,557点 (561)

※()内は入選者数と入選点数

市町村別入選者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横浜市	34	8	41	73	61	217
川崎市	8	1	6	11	7	33
横須賀市	6		1	7	3	17
藤沢市	4	2	3	7	3	19
茅ヶ崎市	4		1	1		6
平塚市	2		3			5
鎌倉市	6		5	22	8	41
逗子市	4	1	3	2		10
三浦市			2		1	3
相模原市	9	1	7	21	5	43
厚木市	3		3	3		9
大和市	3		4	3	1	11
伊勢原市	2		1	2	3	8
秦野市	2			1	1	4
座間市	1		1	1	3	6
海老名市	1		1	2	1	5
綾瀬市	1			3	2	6
小田原市			4	2	1	7
南足柄市	2					2
葉山町				1	1	2
寒川町				1		1
大磯町	1		1	3		5
二宮町	1		2			3
中井町						
大井町						
松田町						
山北町						
開成町						1
箱根町						
真鶴町						
湯河原町				1	1	1
愛川町				1	1	2
清川村						
城山町	1					1
津久井町						1
相模湖町						
藤野町						
県内計	95	13	92	166	103	469
東京都	3	2	5	2	3	15
その他道府	1	1	2		1	5
県外計	4	3	7	2	4	20
合計	99	16	99	168	107	489

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品Ⅰ』洋画
第3回	42年度	垣内 治雄『坐る』彫刻
第4回	43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画
第5回	44年度	山井イク夫『Laby 70-1・2』立体造形
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画 大久保利圀『Straw』工芸 西川 万象『虚子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧崑『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-'77』彫刻
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋Ⅰ・Ⅱ』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書
第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹聳松影』書
第20回	59年度	東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書

第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 管間ゆみい『夢印象』工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第26回	2年度	山本 靖久『時の化石ー豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書
第31回	7年度	R 津田『封印ー過去と未来ー』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域ー群像Ⅱ』平面・立体 今井今日子『Twilightー黄昏ー』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民(ネパール)』写真
第33回	9年度	剣持 啓子『SANAGIー予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8 朝』写真
第34回	10年度	笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真
第35回	11年度	川田 祐子『BIOーPANORAMA』平面立体 齋藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稲葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真
第36回	12年度	川城 夏末『Balance 2000 No.1』平面立体 『Balance 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園(ガラバゴス)』写真

もっと近くに、ずっと一緒に。



Good for you
CERTE

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄関内駅前) TEL 045-651-1431 (代)

プロのために、
プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

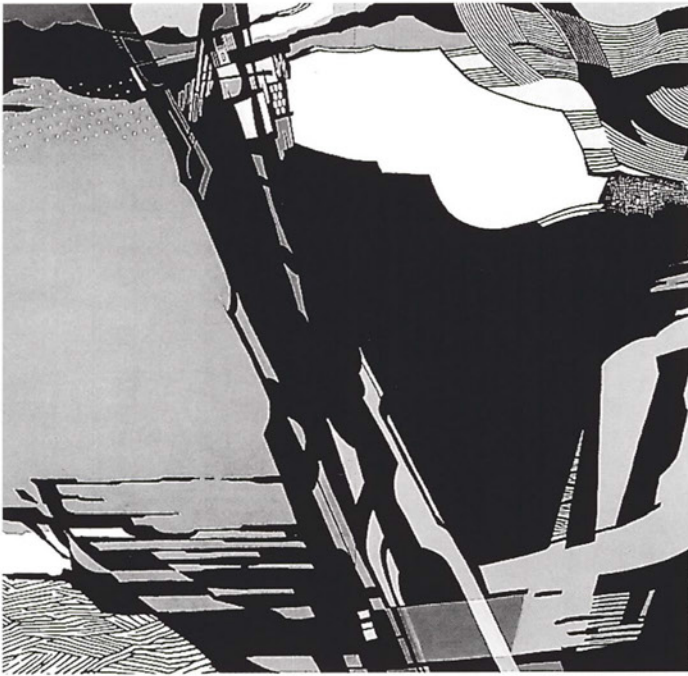
- 文具館 イセザキ町・本店別館 4F・5F…………TEL.(045) 261-1231
- 横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F…………TEL.(045) 453-0811
- 藤沢店 藤沢駅南口名店ビル 2F…………TEL.(0466) 26-1411
- 厚木店 小田急線・本厚木駅前…………TEL.(046) 223-4111

※ルミネ店・藤沢店は書道用品・日本画材のみ取り扱いっております。

有隣堂ギャラリー〈イセザキ町・本店書籍館B1〉

布と遊ぶ

岡田ゆう子 (2000年3月工芸染織科卒)。
第39回日本現代工芸美術展入選。卒業
製作「斜影」



真野沙織 (2000年3月テキスタイル
デザイン科卒)。ジャパンテキスタイル
コンテスト99審査員特別賞受賞。



◆学科構成

テキスタイルデザイン科	(昼3年)
工芸染織科	
友禅染色コース	(昼2年)
伝統織物コース	(昼2年)
プリンティングデザイン科	(夜2年)
ウィービングデザイン科	(夜2年)



学校法人 大塚学院

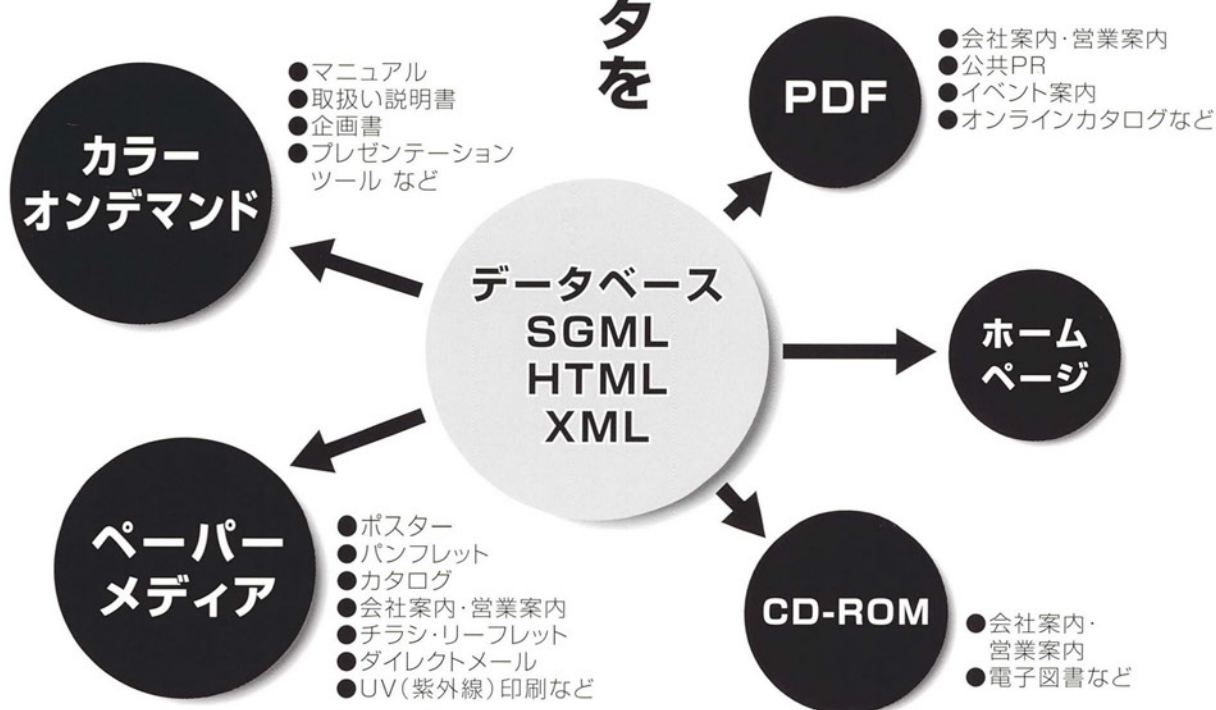
大塚テキスタイルデザイン 専門
学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 (代)

Digital GRAPHICS

One Source Multi Use

ひとつのデータを
多様に展開。



- 業務効率の向上
- 経費の節減
- 納期の短縮

「日本自費出版文化賞」創設
自費出版ネットワーク会員
「自費出版ホームページ」の申込みも

通産大臣賞・中小企業庁長官賞等多数受賞

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231-0012

営業企画本部／横浜市南区新川町1-2 〒232-0027

☎(045) 252-2511

ホームページ <http://www.noge.co.jp>

第36回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成12年4月1日現在)

顧問

小倉 遊亀
近藤 弘明
斎藤 義重
井上 信道
圓鐔 勝三
蓮田脩吾郎
殿村 藍田
菅原 寿雄
弦田平八郎
中原 佑介
吉田 耕三

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊
委員 神戸 由雄
海老塚耕一
大矢 紀
岡本 敦生
建畠 哲
田中 稔之
柳生不二雄
赤塚 郁彦
江成 常夫
島津 碧岳
溪口 幽城
土田ヒロミ
中村 光哉
蔵 隆司
黒川 雅夫

審査員

平面 立体

池田 良二
海老塚耕一
千住 博
田中 稔之
福田 美蘭
水沢 勉
柳生不二雄

工芸

赤堀 郁彦
小野寺 玄
中村 光哉
原 益夫
前田 金彌
真室 佳武
安原 喜孝

書

飯田美砂子
岩澤 蕙堂
島津 碧岳
菅原 教夫
仙場 右羊
殿村 藍田
八木 香葉

写真

江成 常夫
大河原雅彦
梶原 高男
深川 雅文
土田ヒロミ
常盤とよ子
浜口タカシ

第36回神奈川県美術展

発行●財団法人神奈川県芸術文化財団©2000

神奈川県民ホールギャラリー

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL.045-633-3687

撮影・株式会社菊屋写真工房●大橋一彦

表紙・本文デザイン・制作●株式会社野毛印刷社

発行●2000年9月6日

